

『二人で滑るの楽しいな』 4歳児 5月



エピソード

段ボールの上に乗って、築山から滑って遊んでいたA児、B児。紐をつけたり、何度も繰り返し滑ったりしていましたが、なかなか勢いがつきません。

そこで、「次はこれでやってみる？」と、波板を見せました。「うん。やってみる」とA児。早速乗って見たが、乗るだけでは進みませんでした。保育者が少し後ろから波板を押すと、「ザーツ」と音を立てて、勢いよく滑るようになりました。「すごい！滑ったね」と保育者が声をかけると、「うん」と嬉しそうに答え、「もう一回やるわ」と波板を上まで持っていくと何度か滑りました。その様子を見ていたC児が、「Aくん一緒に乗ろう」と、A児に声をかけると、A児は「うーん」と悩み始めました。「一人がいいねんな」とつぶやくA児に、保育者が「2人で乗ったらもっと面白そうやね」と言うと、悩みながらも「いいよ」と答えたA児。乗ってみると、一人の時より勢いよく滑りました。「わあ、すごいね。もう一回やってみる？」と声をかけると、A児は「うん、もう一回やろう」と嬉しそうにC児を誘い、もう一度二人で乗って滑りました。

その後も何度も滑る中で、後ろ向きに乗ったり、「『ポン』ってしたら（築山を蹴ったら）進んだ」と自分なりに気付いたり試したりして、楽しんでいました。

子どもの育ちや学び

- ・段ボールと波板の滑りやすさの違いや、乗る人数や乗り方によって速さが違ったりなど、遊びながら試したり気付いたりしています。
- ・一人で楽しめたかったA児でしたが、保育者の声かけもあり、二人で乗ってみることにすると、予想外に勢いよく滑りました。いろいろとやってみる、試してみることの大切さに気付いた経験になったと思います。

保育者の思い

- ・段ボールや波板など素材によって滑り方が違うことに気付いてほしいと思い準備しました。
- ・「ザーツ」と音を立てて滑ったことで、周りの友達も興味をもつきっかけとなりました。
- ・一人で楽しめたかったA児でしたが、友達と一緒に乗る楽しさも知ってほしいと思い、声をかけました。その結果、友達と一緒に遊ぶ楽しさだけでなく、2人乗りすると勢いよく滑るという発見にもつながりました。
- ・後ろ向きに乗ったり築山を蹴ったり、いろいろな滑り方を試しながら、A児は何度も滑ることを楽しんでいました。嬉しそうな表情や「『ポン』ってしたら進んだ」などの言葉で表現しているA児の気持ちに共感し、さらに楽しめるようにしていきたいです。

家庭だったら・・・

- ・公園やお出かけ先で、芝すべりができるようなところに出かけてみてはどうでしょう。何度も遊ぶ中で子どもたちの発見や気付きがあるかもしれません。
- ・すぐに諦めたり、やる前から嫌がったりすることはありませんか。そんな時は、「やってみたら楽しかった」という経験ができるように、そっと背中を押してあげてください。その成功体験が今後の意欲につながります。